

第44回全国少年柔道大会長野県予選会 大会要項

1. 日 時 令和6年3月17日(日)
8:15~ 受付・計量 8:45~ ドラフト開始 9:00~ 審判・監督会議 9:30~ 開会式
2. 会 場 長野県立武道館 柔道場
3. 参加資格
 - (1) 出場は、県内の分団・道場単位とし、オープン参加とする。
 - (2) 選手構成は原則として令和6年4月30日現在、小学校5年生・6年生の男・女。但し、やむを得ざる場合は5年生の補充として4年生を以ってあてることもできる。
 - (3) 参加選手・監督・役員は全日本柔道連盟に登録しているものに限る。
 - (4) 参加選手で柔道を修行し約6か月満たないものは参加を認めない。
6か月とは総修行期間を表す。(例 柔道を始めて二か月後に骨折をして約二か月の休養後一か月の修行をし、合計五か月の為⇒参加はできない)
 - (5) 参加チームの監督は、全日本柔道連盟公認指導者資格(C指導員)以上を保有したものがエントリー及び帯同しなければならない。(全柔連登録団体が参加チームと異なっても可)
※但し全国大会出場の際にはB級指導者ライセンスを保有した者がいない場合出場できません。
4. チーム編成
 - (1) チーム編成は分団、道場単位とする。(混成チームは認めない)
 - (2) チームは監督1名、コーチ1名、選手5名、補欠2名とし、試合毎に選手の位置は変更できない。
 - (3) 選手編成は大将・副将・中堅は6年生、次鋒・先鋒は5年生または4年生とする。
 - (4) 下学年の児童が上学年の児童の位置に出場する事は差し支えない。(1学年以内、4年生が6年生の位置に出ることはできない)但し、学年順に配列し、同一学年内は体重順に配列する事。
 - (5) 大会中の選手変更は補欠の中から補充は可能であるが、学年順に配列し、学年内で体重順に配列すること。初戦における選手変更は監督会議で届けること。
 - (6) 一旦退いた選手は、その後試合に出場することはできない。
5. 試合方法
 - (1) 試合は、国際柔道連盟試合審判規定並びに「少年大会特別規定」による。
 - (2) 試合は、トーナメント戦により行なう。
 - (3) 各チーム5名の点取り対抗戦とする。
 - (4) 勝敗の判定基準は「一本」「技あり」「僅差」とし、技評価が同等・指導差1以下の場合は「引き分け」とする。「指導」の差が二つの場合「僅差」による優勢勝ちとする。
 - (5) 団体得点法、勝敗は勝点の合計による。勝ち数同数の場合、内容差を見る。内容も全く同じの場合は、引き分けの対戦の中より抽選し代表試合を1回行い、技による評価(技あり)がない、又は同等、指導差が1差以下の場合は旗判定より必ず優劣を決する。(ゴールデンスコアは行わない)
 - (6) 試合時間はすべて3分とする。

6. 脳震盪対応について

- (1) 大会前1ヵ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、大会出場許可を得ること。
- (2) 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)
- (3) 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
- (4) 当該選手の指導者は大会事務局に対し、書面により事故報告書を提出すること。

7. 申し込み

申し込み用フォーマットに記入の上、2月26日(月)必着で下記にEmailにて申し込むこと。

大会事務局 村山洸介 宛

TEL090-7009-7873

Email: Murayamaseikotsuin@purple.plala.or.jp

※ 申し込みの際、件名に「第44回全少申し込み」と明記をお願いすると共に、メッセージ作成画面のツール(T)から開封確認のメッセージの要求をクリックしてメールをお送りください。こちらが開封した旨が返信されます。

9. 組み合わせ

組み合わせは、当日ドラフト方式にて決定する。ドラフト記入用紙は当日受付にて掲示用オーダー用紙と一緒にお渡しします。

但し昨年大会の結果を加味し、事務局でシード枠を設ける。

10. その他

- (1) 試合中の負傷に対する応急処置は大会本部にて行う。
- (2) 負傷、事故等の補償は、主催者が加入した傷害保険の範囲とし、その他の責任は一切負わない。
- (3) 出場選手は、各自傷害保険へ加入すること。
- (4) 出場選手、監督および保護者は、申し込みの時点で体格差のある選手との対戦が生じる場合があることを了承したものとする。
- (5) 本大会の統括・運営は全日本柔道少年団によるものです。出場チームは出来るだけ全日本柔道少年団に登録する事とする。

《お願い》

本大会は、身体的にも精神的にも発育途上の小学校児童の大会であることを常に念頭におかれて特に危険防止について考慮されたい。また礼法を正しく行わせるはもとより、姿勢・組み方についてもご配慮・御指導をお願いしたい。